

地域おこし協力隊が描く ふくしまの未来

自然が豊かで、人がやさしい福島県。それぞれの地方に個性があり、さまざまな人が暮らしています。その中に、地域をもっと元気に、より魅力的にするため、日々悩みながら、前向きに励んでいる地域おこし協力隊があります。

この場所で地域に関わり続けたい

地 域おこし協力隊として三島町商工会に赴

づくりにも励んでいます。

現在、改修した空き店舗に

や生活サポート事業を中心に進めていきます。

任し、買ひもの支援として町

人やモノの拠点をつくって

喜ぶ人の笑顔を見ることが

内で入手しにくい食品を取

おり、協力隊の任期が終わる

で「やってきたことが間違い

り揃えた「よつてがん処夕

この4月からは、その拠点を

ではなかった」と実感。協力

市」というイベントを開催し

会社として運営していく予

隊の活動の中で感じたこの

ています。また、大型スー

定です。新しい会社では住民

気持ちだが、今の私のモチベ

パーと連携し、お惣菜を発注

の皆さんに安心した暮らし

ションです。

して利用者に届ける仕組み

を届けられるよう、飲食事業



Interview
01

地域おこし協力隊
三島町商工会

さとう あやの
佐藤 彩乃さん

地域おこし協力隊の 主な活動内容

- 地域行事やイベントの応援、伝統芸能や祭りの復活
- 地域ブランドや地場産品の開発・販売・プロモーション
- 空き店舗活用などの商店街活性化、農作業支援 など

地域おこし
協力隊って
何？

「地域おこし協力隊」とは、人口減少や高齢化などの進捗が著しい地方において、都市部の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらうことで、地域力の向上を目指す取り組みです。

地方自治体が住民を受け入れ、地域おこし協力隊として委嘱します。おおむね1年以上3年以下の期間、地域で生活しながら活動に従事します。



地域おこし協力隊OB
 (一社)つむぐるカンパニー 小林 誠さん
 【伊達市】

地域おこし協力隊の先に あったもの

福

島市で生まれ育ち、東京で長いことサラリーマンをして、正直、福島に戻る気は全くなかったんです。だけど、震災以降、福島でボランティア活動をするうちに、自然があつて、ご飯がおいしいくて、ふと「福島つて良いところだな」って改めて気づきました。その後、福島にUターンし、平成25年7月から伊達市地域おこし支援員として、担当の保原町富成地区を中心に「寺子屋教室」(子どもたちの学習支援・交流事業)や「田舎体験ツアー」などの企画、地域の自治組織の事務局運営などに携わりました。

任期を終えても、「地域の受け皿になりたい」との思い

が強く、伊達市内で新たに法人を設立しました。現在も、県内を訪問する大学生を受け入れたり、耕作放棄地を利活用してワイン用ブドウの栽培に取り組んだり、地域おこし協力隊の延長線上にあるような活動に励んでいます。行政と地域の間で立つ「橋渡し役」になることが私の役割だと思っています。



小林さんの案内のもと、伊達市の子どもたちと交流する首都圏の大学生。

地域おこし協力隊になるには…



- ① 県内自治体による協力隊の募集情報などを確認。
※活動内容、条件、待遇などは各自治体によって異なります。
- ② 募集している自治体に応募。
- ③ 自治体による選考(書類選考、面接など)の結果、採用が決定。
- ④ 自治体から、地域おこし協力隊としての委嘱を受ける。
- ⑤ 地域おこし協力隊として活動開始!



地域おこし協力隊とつながる取り組み



町の名産品を説明する金山町の
鈴木隊員



福島の今を伝え、地域とつながる「ふふふカフェ」

地方での暮らしに興味のある方に向けて、自治体職員や地域おこし協力隊が福島の魅力を直接伝える「ふふふカフェ」を定期的に首都圏で開催しています。
隊員などとの交流を通して、福島の今を知ってもらい「ふくしまファン」を増やしていく取り組みです。

隊員同士が交流できる場所があります！

新しく着任した地域おこし協力隊が、活動の具体的なイメージを持つことができるようにオンラインエンターションを行っています。地域おこし協力隊のOB・OGも参加し、「地域で活動する心得」などについて語り合うことで、隊員同士のネットワーキングづくりができています。



事例説明を行う柳津町の松村隊員



地域おこし協力隊の紹介冊子「フクノヒト」ができました！



ふくしまで働く地域の担い手のインタビューや地域おこしの事例紹介など、情報満載！ホームページからも閲覧できます。ぜひご覧ください。

ふくしまで働く 検索



県では、隊員の皆さんの活動を積極的に支援することで地域の活性化につなげていくとともに、福島だからこそ実現できる暮らしやチャレンジに魅力を感じ、多くの方が隊員になっただけのように、情報発信にも努めてまいります。

現在、福島県では、約100人の地域おこし協力隊員の皆さんが、県内各地で暮らしながら、復興やまちづくり、伝統産業の継承といった地域の課題に取り組んでいます。隊員の皆さんは、住民の方々と共に地域を守り、元気を生み出す大切な存在です。



知事
メッセージ

Message

地域を守り、
元気を生み出す
要として
福島県知事 内堀 雅雄